

第3節 災 害

1. 災害年表

(1) 直轄改修着手以前の災害

藩政時代の肱川の洪水災害は、大洲藩主加藤家の年譜に残されている。明治以降は藩の記録はないが県が設置、観測した量水標による記録が残っている。以下記録を述べると下記のとおりである。

表-2-3-1 肱川水害年表

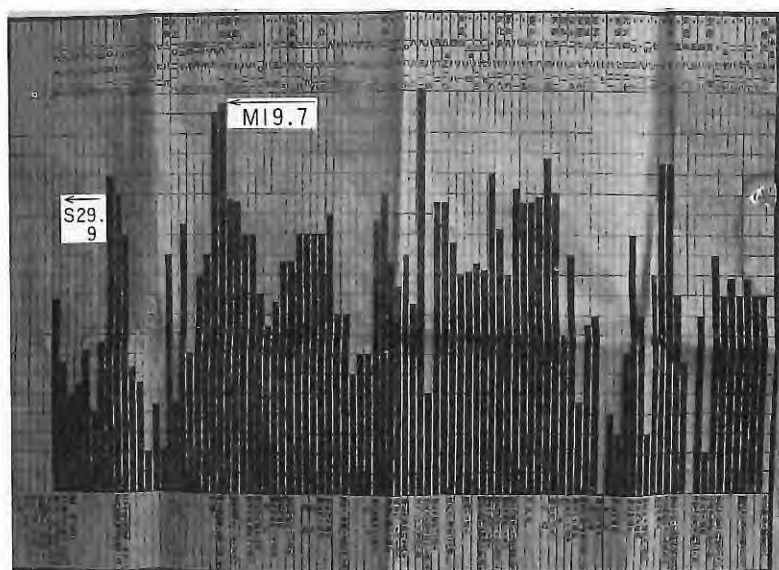
洪水年月日	増水量	計画高水位との水位差	記録にある被害状況
元禄元.5.30	約 23.0 ^尺	約-2.40 ^m	加藤家記録の零点高8,587m、枡形量水標零点高9,617m
〃 元.7.17	23.0	-2.40	枡形計画高水位17.92m。これをもって枡形水位に換算した。
〃 2.7.17	23.9	-2.10	御城内初め御家中屋敷其の他川筋村破損多し
〃 2.7.28	23.0	-2.40	
〃 2.8.20	23.8	-2.10	
〃 15.7.28	23.0	-2.40	潰家1,332軒、男女2人死亡
〃 15.8.20	25.0	-1.80	痛潰家238軒、
〃 16.8.19	不詳		東風強く出水御家中屋敷破損多倒家608軒
宝永元.7.4	15.9	-4.60	御在所大風雨
〃 4.8.18	21.9	-2.80	潰家1,782軒、女1人死亡
〃 5.5	23.0	-2.40	
正徳4.8.8	19.5	-3.50	
〃 5.6.31	23.0	-2.40	御家中初め114軒水入床上深2尺
享保6.7.15	29.5		須合田御蔵床上水上米1俵通濡
〃 6.7.16	29.5	-0.50	御在所洪水
〃 7.6.24	不詳		
〃 14.8.19	〃		御在所大風雨川々満水
〃 14.8.20			
〃 14.9.11	22.0	-2.70	御在所大風雨
〃 20.4.24	26.0	-1.50	御在所出水
〃 20.4.26			
元文4.4.27	不詳		
寛保元.7.22	16.0	-4.50	御在所風雨
〃 2.8.21	17.0	-4.20	御在所風雨
〃 3.7.7	13.0	-5.40	御在所風雨
延享元.8.10	22.0	-2.70	御在所風雨
寛延元.9.2	21.5	-2.90	御在所風雨刻々出水
宝暦7.7.26	17.5	約-4.10	御在所風雨

洪水年月日	増水量	計画高水位との水位差	記録にある被害状況
宝暦12.6.26	不詳	m	在所強出水
安永2.5.25	25.0	約-1.80	強風雨にて出水
明和2.8.1	21.0	3.00	洪水
天明2.8.20	不詳		在所風雨洪水
" 3.8.12	28.0	-0.90	御在所洪水
" 4.6.6	不詳		永々雨天祈禱八幡宮
" 6.8.29	"		御在所大風雨半時許にて相済み
" 7.4.25	29.7	-0.40	御在所洪水
" 8.9.	27.8	-1.00	
寛政4.7.12 13	27.5	-1.10	大風雨
" 4.7.25	27.5	-1.10	
" 8.8.11	28.2	-0.90	御在所風雨川々満水破損処有之出水
享和元.8.19	24.0	-2.10	御在所風雨川々満水
文化元.7.26	26.2	-1.90	御在所風雨川々満水溺死1人
" 元.8.29	29.0	-0.60	御在所風雨川々満水流死6人、御領分中潰家361軒
" 12.7.7	24.2	-2.10	御在所5月末より照続処6日強雨川々満水
" 13.8.23	24.5	-2.00	
" 13.9.4	24.1	-2.10	強雨川々満水
文政4.8.1	24.0	-2.10	
" 4.8.8	25.5	-1.70	流死3人、潰家21軒
" 5.1.20	27.5	-1.10	
" 5.6.2	27.5	-1.10	御在所風雨川々満水
" 8.8.14	不詳		御在所大風雨近年無之烈風川々満水
" 9.5.21	33.1	+0.60	流死30人、流家46軒
" 9.6.6	22.5	-2.50	
" 10.6.17	25.0	-1.80	御在所強雨川々満水
" 11.7.2	23.3	-2.30	風雨烈しく川々満水
" 12.5.24	24.5	-2.00	後雨烈風川々満水
天保2.5.20	28.0	-0.90	
" 3.6.3	26.6	-1.30	御在所風雨川々満水
" 6.5.14	20.0	-2.30	御在所風雨川々満水
" 6.5.21	20.0	-2.30	
" 6.7.6	不詳		
" 7.7.8	22.0	-2.70	梅雨より降り続き此節大雨
" 7.8.4	22.0	-2.70	

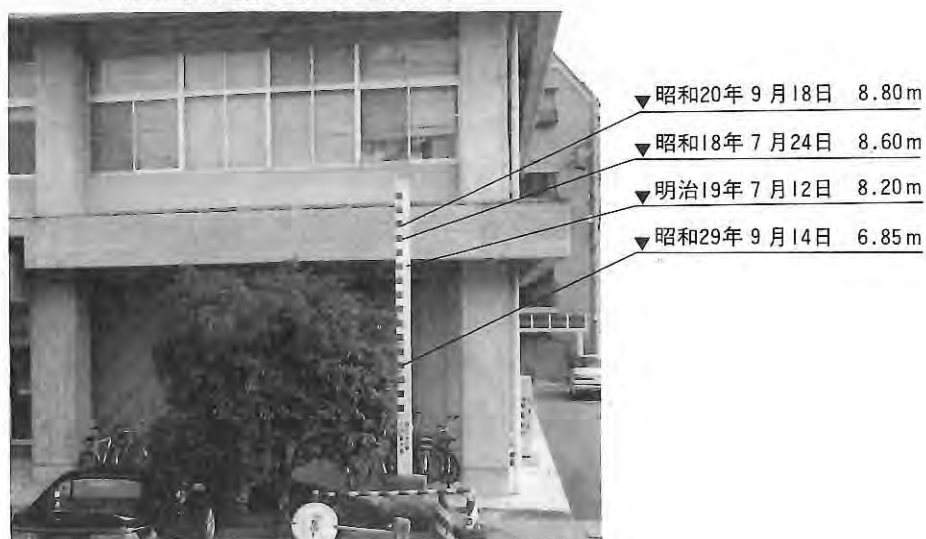
洪水年月日	増水量	計画高水位との水位差	記録にある被害状況
天保 9.7.21	27.0	約-1.20	強雨川々満水
弘化 3.6.25	26.0	-1.50	御在所大風雨
〃 3.6.28	26.0	-1.50	御在所大風雨
〃 3.7.9	26.0	-1.50	御在所大風雨
〃 3.7.18	26.0	-1.50	
嘉永元.6.13	24.5	-2.00	御在所風雨川々満水
〃 2.6.13	不詳		御在所風雨
〃 3.5.3	22.5	-2.40	御在所風雨川々満水
〃 3.8.7	21.4	-2.80	御在所風雨川々満水
〃 3.10.12	23.0	-2.40	御在所大風雨出水
〃 5.8.16	26.0	-1.50	御在所烈風雨川々満水
〃 5.8.22	26.0	-1.50	
安政 2.7.14	27.5	-1.10	満水常水より2丈7尺5寸
萬延元	不詳		
明治19.9.11	32.4	-0.10	明治以後藩の記録なし県の量水標による。
〃 29	不詳		
〃 38	〃		
〃 41	〃		
〃 44	〃		
〃 45	〃		
大正 9	〃		
〃 10.2.18	〃		
昭和 3.8.6	25.0	-1.10	
〃 7.7.2	15.1	-3.70	
〃 9.9.21	17.4	-3.00	室戸台風
〃 10.6.29	15.0	-3.80	
〃 10.8.29	18.5	-2.70	
〃 10.9.25	19.3	-2.40	
〃 11.9.25	4.55	-3.80	
〃 12.9.11	4.85	-3.40	
〃 13.8.1	7.43	-0.90	
〃 14	5.77	-2.50	
〃 15.10.20	2.73	-5.60	
〃 16.7.25	5.17	-3.10	
〃 17.9.21	5.91	-2.40	

洪水年月日	増水量	計画高水位との水位差	記録にある被害状況
昭和18.7.24	8.60 ^m	+0.30 ^m	低気圧、不連続線による。死傷者131人、流失家屋554戸（非住家含む）全壊家屋396戸（非住家含む）田畑流失、埋没1,626.7町、床上浸水6,940戸（非住家含む）床下浸水3,876戸（非住家含む）堤防（決壊、破損）59ヶ所、道路258ヶ所、橋梁13ヶ所、砂防38ヶ所（以上肱川水系内）

肱川著大洪水比較表



大洲工事事務所内の洪水痕跡ポール



(2) 直轄改修着手以降の災害

量水標零点高 S29 以前 TP.9.617(楢形)
 S29~S54 TP.9.635(大洲第二)
 S55 以降 TP.9.377(大洲第二)

表-2-2 直轄着手以降の主な洪水と被害

年月日	水位 (m)	流量 (m ³ /s)	大洲 総雨量	原因	被害状況
昭和20年9月18日	8.79	5,000	470 (2日雨量)	枕崎台風	死傷者152人、流出家屋388戸、全壊家屋1,634戸、田畑流出・埋没698町歩、床上浸水7,229戸、床下浸水2,686戸、河川33カ所、道路820カ所、橋梁163カ所
昭和21年7月29日	5.46	2,188	157.5	台風9号	
昭和22年7月9日	6.09	2,635	139.8		
昭和23年8月26日	5.30	2,081	196.0		
昭和25年9月14日	6.24	2,747	263.6	キジア台風	
昭和26年7月14日	5.24	2,042	263.6		
昭和28年6月29日	5.58	2,270	424.9		
昭和29年9月14日	6.85	3,228	135.9	台風12号	
昭和35年6月22日	4.84	2,125	186.1	梅雨前線	
昭和38年8月10日	5.00	2,261	246.1	台風9号	
昭和40年9月17日	5.60	3,071	285.0	台風24号	
昭和42年7月10日	4.00	1,868	124.0	豪雨	浸水農地210ha、宅地・その他203ha、床上浸水家屋176棟、床下浸水家屋531棟
昭和43年7月2日	6.66	2,132		台風10号 梅雨前線	浸水農地598ha、宅地・その他349ha、床上浸水家屋488棟、床下浸水家屋1,746棟
昭和44年7月2日	6.14	1,662		梅雨前線	浸水農地130ha、宅地・その他0.2ha、床上浸水家屋18棟
昭和45年8月21日	5.50	3,203	130.0	台風9・10号	浸水農地522ha、宅地・その他543ha、床上浸水家屋45棟
昭和51年9月11日	4.75	2,151		台風17号	浸水農地14ha、宅地・その他4ha、床上浸水家屋1棟、床下浸水家屋24棟
昭和55年7月2日	4.56	2,279		梅雨前線	
昭和57年7月15日	3.84	1,537		梅雨前線	
昭和57年7月24日	4.45	2,137		梅雨前線	
昭和57年8月27日	5.41	2,774	180.0	台風13号	浸水農地726ha、宅地・その他41ha、床上浸水家屋26棟、床下浸水家屋88棟
昭和57年9月25日	4.20	1,962		台風19号	
昭和62年7月18日	5.30	2,560		梅雨前線	浸水農地194ha、床上浸水家屋29棟、床下浸水家屋45棟
昭和63年6月25日	5.21	2,442		梅雨前線 台風4号	浸水農地96ha、宅地・その他15ha、床上浸水家屋23棟、床下浸水家屋110棟
平成元年8月26日	4.08	1,649		台風17号	
平成元年9月19日	4.86	2,269		台風22号	
平成2年9月19日	4.54	1,630		台風19号	

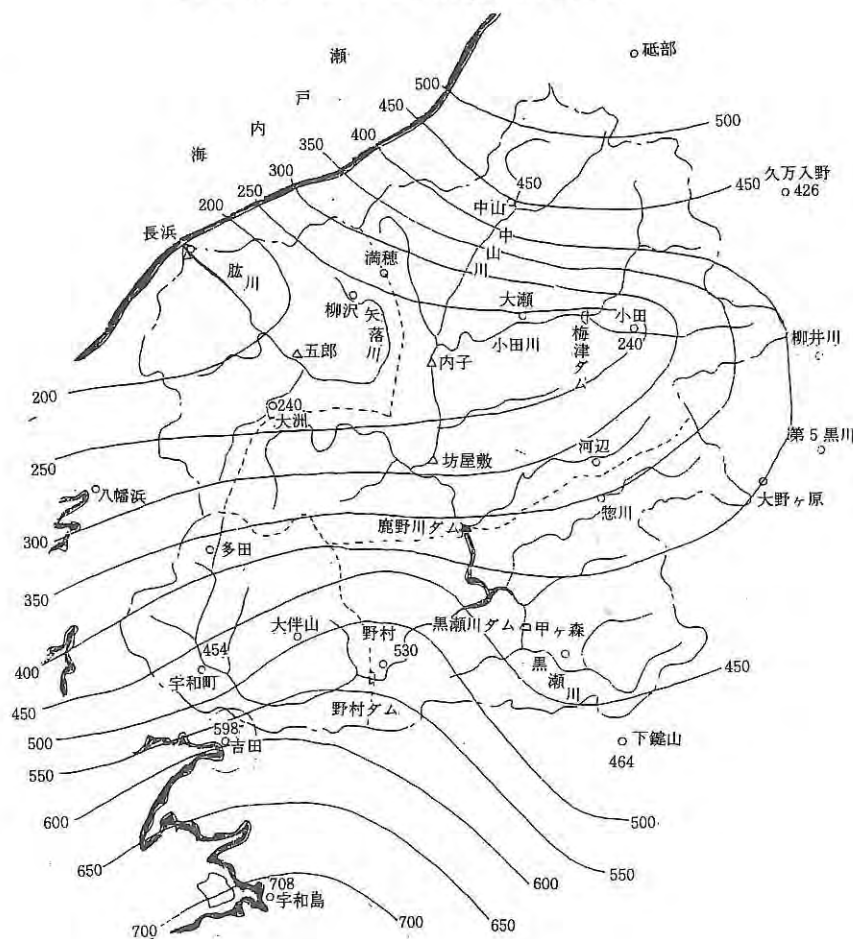
2. 主要洪水

(1) 昭和18年7月24日洪水

低気圧と不連続線が本流域附近に停滞したためにもたらしたもので、7月21日～24日の4日間に年間降雨量の約1/3の降雨量があった。このため山地の崩壊、地這り等が各所に起り河水は濁流となって氾濫し、人畜の死傷、民家の流失、堤防の決壊等、未曾有の大被害をもたらした。流域総雨量は本川上流宇和町で755mm、支川小田川の小田町で406mm、日雨量は宇和町で228mm、小田町で160mmを記録した。

一方水位は、大洲桝形地点で8.6mを記録し流量は、約4,800m³/sと推定された。

図-2-3-1 昭和18年洪水等雨量線図



荒瀬川橋上流附近



荒瀬川南地区の浸水状況

(2) 昭和20年9月17日洪水

本郡一帯に発し停滞していた不連続線が枕崎台風の接近により刺激され、9月17日同台風が流域の西部を通過するにおよんで猛烈な暴風雨となった。

戦時中における山林の乱伐が甚しく、山林は荒廃しているため、豪雨は一瞬にして流出し、昭和18年7月洪水による水源各地の崩壊箇所は再び大崩壊を起し、土石流となって下流河床を埋めつくした。そのため漸く復旧したばかりの沿岸堤防護岸等を欠壊し、耕地に氾濫して人畜の死傷、人家、農作物等に多大な被害をもたらした。

流域総雨量は、大洲町で470mm、本川上流野村町で302mm、支川小田川の小田町で148mm
日雨量は大洲町で350mm、野村町で222mm、小田町で127mmを記録した。

一方水位は、大洲榊形地点で8.79mを記録し、流量は約5,000m³/sと推定された。

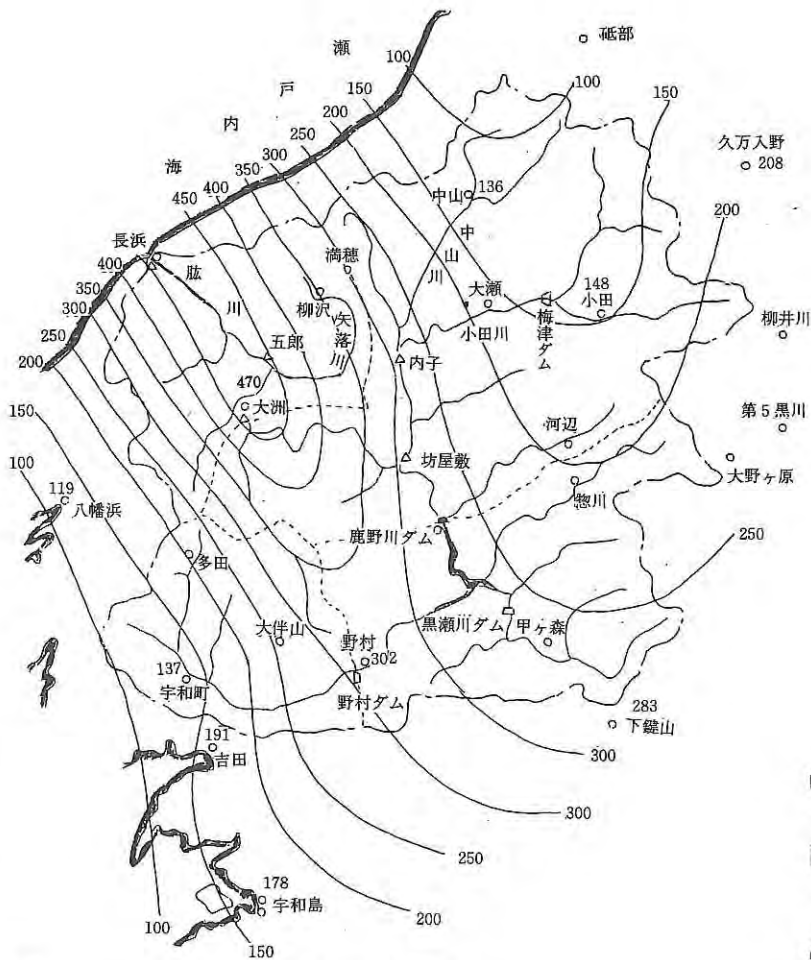
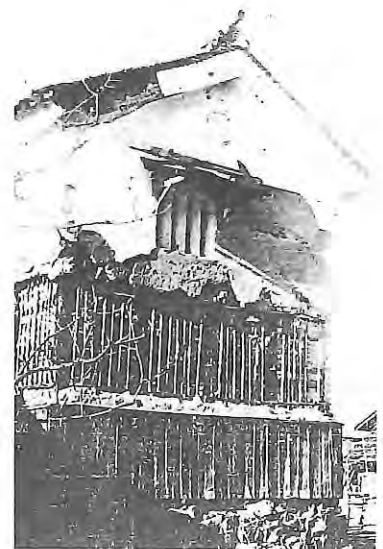


図-2-3-2 昭和20年洪水等雨量線図



S.20.9 若宮地区の浸水状況 (痕跡調査による)

(3) 昭和45年 8月21日洪水

台風10号は、21日 3時、室戸岬の南々西210kmに達し、四国の太平洋側を暴風雨圏に包みながら同 8時には高知県佐賀町に上陸し、四国南部を横断、松山市附近を通り、安芸灘に出て15時には日本海に抜けた。

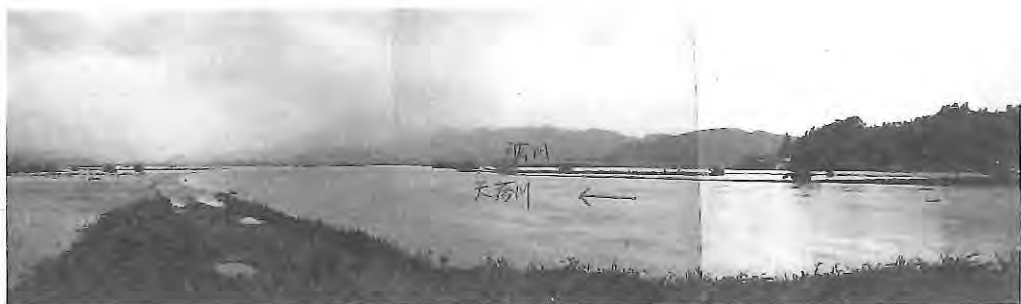
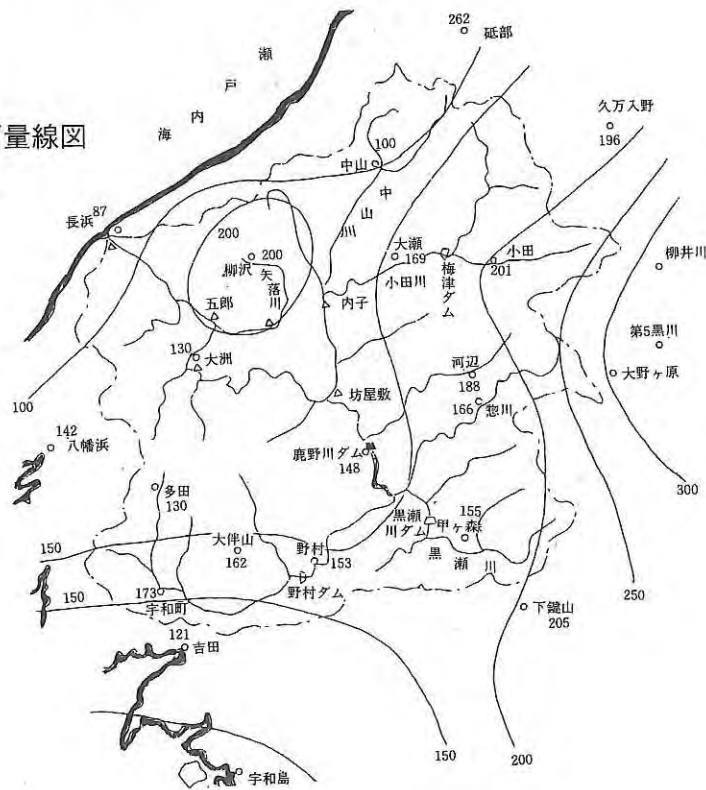
本流域は台風上陸後、猛烈な暴雨にみまわれ時間雨量20mm前後の強雨が数時間に及んだ。

総雨量は、大洲市で130mm、本川上流野村町で181mm、支川小田川上流で349mmを記録した集中型の豪雨であった。

一方水位は、大洲地点で警戒水位4.50mを大きく上回る5.50mを記録し、流量は3,200 m³/s 程度と推定された。

このため、大洲、春賀、八多喜等の沿川平野が氾濫のため浸水し、人家、農作物、護岸等に多大の被害を与えた。

図-2-3-3
昭和45年洪水等雨量線図



45.8.21 台風10号 松ヶ花橋附近より 18:50頃

図-2-3-5 台風13号気象配置図

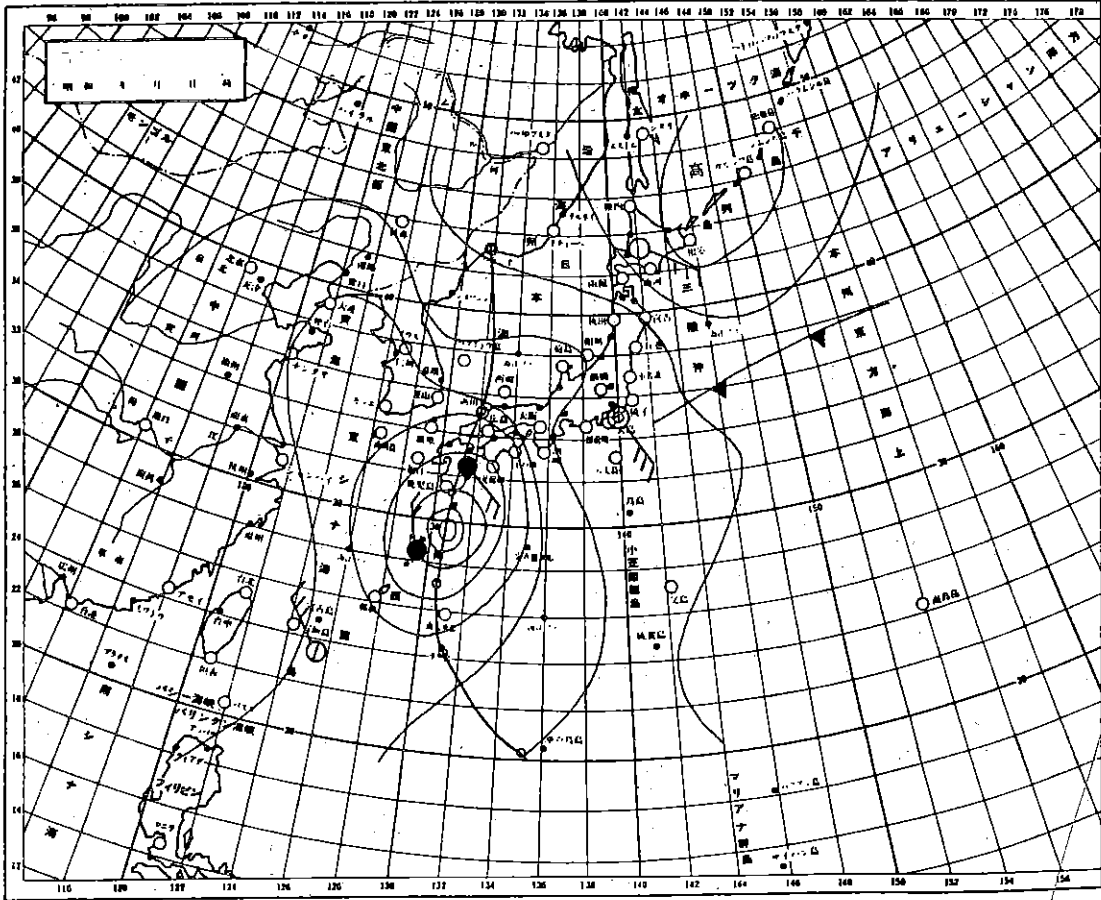


表-2-3-3 氾濫箇所一覧表

水系名	河川名	ヶ所番号	氾濫の原因	氾濫面積	平均水深	滞水時間	摘要
肱川	肱川	1	外水	141.4千㎡			柚木
〃	〃	2	〃	59.8			如法寺
〃	〃	3	〃	563.2			久米
〃	〃	4	内水	84.1			只越
〃	〃	5	外水	1,837.5			大洲
〃	〃	6	〃	0			新谷
〃	〃	7	内水	52.0			大河内
〃	〃	8	〃	46.3			小貝
〃	〃	9	〃	234.3			五郎
〃	〃	10	外水	126.4			峠
〃	〃	11	内水	49.6			多田
〃	〃	12	外水	733.8			春賀
〃	〃	13	〃	430.3			伊州子
〃	〃	14	〃	747.6			八多喜
〃	〃	15	〃	318.6			豊中
〃	〃	16	〃	163.8			白滝
〃	〃	17	〃	4.9			田淵
〃	〃	18	〃	25.4			柿早
〃	〃	19	〃	24.8			加世
〃	〃	20	〃	4.6			大町
〃	〃	21	〃	3.3			小浜
〃	〃	22	〃	6.6			大和
〃	〃	23	〃	3.1			出石
〃	〃	24	〃	12.1			沖浦

(5) その他の洪水

⑥



昭和10年9月25日 大洲平野の滞水状況



昭和10年9月25日 白滝村白滝公園より
下流混乱の展望



S.25.9 (キジア台風)国鉄予讃線の溢流
状況=若宮にて



S.25.9 (キジア台風)
喜多小学校前の浸水



S.35.6 五郎鉄橋より本川を望む



S.35.6 五郎駅前附近



(上) 八多浪I地区 昭和62年7月18日 梅雨前線
大洲地点流量 約2,600 m^3/s